

Crown English Communication I, pp. 142–43.

Lesson 10**Good Ol' Charlie Brown**

The first *PEANUTS* ⁽¹⁾cartoon appeared over 60 years ago. The cartoonist, Charles M. Schulz, died in 2000, but old cartoons ⁽²⁾continue to be published. Every day new readers discover the *PEANUTS* characters.

—1

Charlie Brown. Lucy. Linus. Snoopy. They have appeared in magazines and newspapers for over half a century. They have hundreds of millions of fans around the world. People who don't know the names of their next-door-neighbor's children know the little "loser" who never stops believing that he can win; the little girl who always gives people ⁽³⁾advice; the small boy who always has his security blanket with him; and, the ⁽⁴⁾best-known of all, the beagle who thinks that he is a fighter pilot or a great writer. They are the main characters in the *Peanuts* cartoons.

Why are these cartoons so popular? Why has *Peanuts* captured the hearts of people all over the world?

Let's look at a few *Peanuts* cartoons and see if we can find answers to these questions.

Lesson 10—Lead

(1) cartoon 図 1, p. 311.

car-toon† 生活 /ka:rtú:n/ 図 1 コマ割り漫画, 新聞連載漫画 (comic strip) ▶cartoon characters 漫画の登場人物. 2 アニメーション, アニメ, 動画 (animated cartoon) ▶watch *Saturday morning cartoons* on TV テレビで土曜の朝のアニメ番組を見る/*cartoons depicting the prophet Muhammad* 預言者ムハンマドを描いたアニメ. 3 (新聞・雑誌などの)時事風刺漫画, 1コマ漫画 ▶a political *cartoon* 政治漫画. 4 (壁画・モザイクなどの)実物大の下絵.

car-tóon-ish /-ɪʃ/ 図 漫画のような.

car-tóon-ist 図 (新聞・雑誌などの)漫画家; 風刺漫画家 (特に政治・時事などを題材にする).

- 意味と共に ㊦ というロゴから加算名詞であることをチェックさせ、教科書の次行に複数形で出ていることも確認させる。辞書用例は **character** (登場人物) という名詞の前で形容詞的に使われているが、この名詞は教科書本文にも登場するので注意を促す。
- この語のように、中学必修 (A ランク)、高校必修 (B ランク) 以下の下位ランク語 (C/D/E ランク) であっても、日常生活で頻出する語や、日本の事物のことを発信する際に必要とされる語については、生活 ロゴを付して用例・解説を増強してある。実際に、会話長文やオーラルなど、大学入試にも頻出する語であるし、英語での発信の際にも役立つ語なので、生活 ロゴの付いた語は意識的にマスターしておくように指導しておくのもよい。
- 教科書本文の次行にある **cartoonist** も、辞書では **cartoon** の近くで見出し語になっているので確認させる。
- 日本の「マンガ」が英語として使われるようになってきているので、**manga** (p. 1221) を探させるのもよい。

man-ga /mæŋgə/ [<日本 >] 図 漫画, マンガ, コミック.

(2) continue 動 他 1, p. 436.

— 他 (→ 分詞 continued) 1 <人などが> (行動・習慣などを) 続ける; **[continue to do/doing]** <人・物が> …し続ける (㊦ ㊧ to do の方がよく用いられるが、to continue の直後では繰り返しを避けるために doing が好まれる) ▶continue to stare at the sky 空を見つめ続ける/The rain continued to fall [*falling*] for ten hours. 論説 雨は10時間降り続けた/continue one's research 研究を続ける.

- 教科書本文で to 不定詞が続いていることに注目させ、**[continue to do/doing]** という文型表示のある他動詞の語義 1 に導く。スラッシュ (/) で区切られて併記されているということは、どちらの形も使われるという意味であることを確認させる。辞書の第2用例には両方の形を使った言い換え例が出ているのでチェックさせる。
- ここの第2用例のように、大学入試の論説文や、ニュース記事・ビジネス文書など、論理的英文に特徴的に表れる表現には、用例に 論説 ロゴを付してある。上記例なども実際にセンター試験や私大入試などの長文読解問題に非常によく出てくる表現なので、生徒には「論説 ロゴの付いた用例はきちんとマスターしておくこと」と指導しておくのもよい。

Lesson 10—Section 1

(3) advice 図 1, p. 35.

ad·vice /ədˈvɪs/ (1) 強勢は第2音節 [ad (...の方を) vice (見ること)] ((動) advise, (名) adviser, advisor)

— 図 (動) ~s /-ɪz/ 1 図 «…についての/…せよという/人に対する» 忠告, 助言, アドバイス, 勧告 «on, about/to do, that節/to, for» (1) on, about の後は 図 (動名) wh 句など. (2) しばしば日本語の「アドバイス」より重大なニュアンスを持つ) ▶give a piece [word] of advice to students 生徒にちょっとした助言をする (×an advice としない)/I have some advice [×advices] for you, Jessica. ジェシカ, 君に少し忠告があるんだ/My advice (to you) is to call the police as soon as possible. 一刻も早く警察に電話をするべきだ/I asked my dentist for advice on how to prevent tooth decay. かかりつけの歯医者から虫歯予防法について助言を求めた/on [against] one's doctor's advice 医者の忠告に従って[反して]/She ignored my advice to [that she ((主に英) should)] stop drinking. 彼女は禁酒しろという私の忠告を無視した (→should 7 語法).

【表現】 (一) 図 + advice ▶legal [medical, financial] ~ 法[医学, 金銭]的な助言/expert [professional, technical] ~ 専門的な助言/free ~ 無料相談/sound [independent] ~ もっともな[第三者の立場からの]助言/practical [general] ~ 実際[一般]的な助言. (2) 動 + advice ▶give [provide] some ~ 何らかの助言を与える/take [follow, ×obey] A's ~ Aの助言に従う/seek (かたく) [ask for (よりくだけて)] ~ 助言を求める/have [need, want] some ~ 何らかの助言がある[が必要である, が欲しい]/offer [get, receive] ~ 助言を申し出る[もらう, 受ける]/ignore [accept] A's ~ Aの助言を無視する[受け入れる]/heed (かたく) [listen to (よりくだけて)] A's ~ Aの助言に耳を傾ける.

- 見出し語・発音記号に続く 1 の注記で「強勢は第2音節」と記されているのでチェックさせる。カタカナ語としても使われる語の発音・強勢は、もともとの英語とはズレがある場合が多いので、必ず確認する習慣をつけさせたい。
- 図のロゴがあることから不可算名詞であることを意識させ、教科書本文に不定冠詞がついていないことを確認させる。さらに辞書の第1, 第2用例共に加算用法を取らないことが(×)を付して記されているのでチェックさせる。
- 教科書本文や太字で記された辞書の第1用例が、共に動詞 give とのコロケーションで

あり、重要表現として覚えさせたい。そのほかの太字用例も要チェック。さらに、典型的なコロケーションが表現コラムに挙げられているので参照させる。

- 辞書のページをめくると動詞の advise が出ているので、意味・発音の違いなどに触れておくとよい。

ad·vice /ədˈvɪz/ (1) 強勢は第2音節; -se は /z/ [ad (...の方を) vise (見る); →advice] ((名) adviser, advisor)

— 動 (~s /-ɪz/; ~d /-d/; advising)

— 1 a [advise A to do] (専門家・物事に詳しい人などが) A (人) に…するよう忠告する[強く勧める] (1) 日本語の「アドバイス」と違い強制を含意) ▶The police officer strongly advised the driver to obey the traffic rules. 警官は運転手に交通ルールに従うよう強く警告した/Pregnant women are advised to keep their intake of caffeine low. (丁寧) 妊婦の方はカフェイン摂取を控えるようご注意ください。

(4) best-known 図, p. 193.

best-known 図 最も有名な.

- best は well の最上級であり、best-known (最も知られている) という表現の元になっているのは well-known であることを理解させてから well-known を辞書で引かせる (p. 2232)。well-known の項では、変化形として best-known が出ており、第3用例にも使われているのでチェックさせる。well-known の意味や用法に触れておくのも有効。

well-known, **well known** /wɛlnəʊn/ (1) 図の前では well-known

— 図 (1) 通例 図の前では well-known, be ~ では well known を用いる (better-known; best-known / (まれ) more ~; most ~) «人々に/…で/…として» よく知られている, 有名な, 名の通った, 世に知れた «to/for/as» (→famous 類義) ▶a well-known actor 有名俳優/She is well known for her poetry readings. 彼女は詩の朗読でよく知られている/the world's best-known park 世界で一番有名な公園/It's a well-known fact [well known] that ... …というのは周知の事実である。

Crown English Communication I, p. 144.

—2

It is Father's Day and Violet is talking about her father. She tells Charlie Brown that her father is richer than Charlie Brown's dad, and that he is better at sports. Charlie Brown has ⁽¹⁾little to say. He just asks Violet to come with him to his father's barbershop. He tells her that no matter how busy his father is, he always has time to give him a big ⁽²⁾smile because he likes him. Violet has nothing more to say. She simply walks away. Her father's money and athletic ability cannot ⁽³⁾compete with a father's simple love for his son.

Lesson 10—Section 2

(1) little ㊦ 1, p. 1176.

— ㊦ ㊦ [単数扱い] 1 《ややかたく》[a を伴わないで] (量・程度・頻度などについて否定的に) **ほとんどない(ほどの量)**, わずかしかない(量), ほんの少し (↔ much; → few) (㊦ 元来 ㊦ なので very, as, so, too, how などの修飾語を伴うことがある; ↑ ㊦ 7) ▶ Little is known about the tribe's origins. その部族のルーツについてはほとんど知られていない/Little of the work has been done. その仕事はほとんど手がつけられていない/I've seen little of him recently. 彼には最近ほとんど会っていない/I had very little to do with the matter. 私はその事件にはほとんど関係がなかった/do little to help ほとんど助けにならない/There was little else I could do at that time, was there? その時できることはほかにはほとんどありませんでしたね (㊦ 付加疑問文は肯定で呼応する).

2 [a little] (㊦ 《くだけて》) a little bit a (量・程度などについて肯定的に) **少し, 少量, いくらか** (↔ a lot) (↑ ㊦ 8) ▶ I'll give you a little. 少しあげましょう/I've only heard a little of their music. 彼らの音楽は少しだけ聴いたことがある/a very little ごく少量.

- 代名詞の語義 1 にある[a を伴わないで]という用法指示を, 語義 2 にある[a little]と比較させ, 教科書本文は語義 1 に該当することを確認させる。
- 「ほとんどない」という訳語だけでなく, ()の補足に示された否定的な意味合いに注目させる。語義 2a の肯定的意味合いと比較させるとよい。
- 辞書の第 4, 第 5 用例は, little に to 不定詞が続いた教科書本文と同じ形なので参照させる。これらは little を修飾する to 不定詞の形容詞的用法で, 「…する(ための)ものがほとんどない」という意味になることを理解させる。よって, 教科書本文は「言うことがほとんどない=ほとんど何も言わない」となることをチェックさせる。
- 教科書同ページ 8-9 行目には has nothing more to say とよく似た形があるので, 後で比較させるとよい。nothing more to say は, 辞書では nothing の項目, 代名詞の語義 1 で第 1 用例として挙げてある(p. 1366)。ここでは nothing else to say との言い換え例を示してあるので, 調べさせて表現の幅を広げるのもよい。

nothing ㊦ /nʌθɪŋ/ (㊦ 文の中では一般に強勢が置かれる; 特に主語の場合その傾向が強い)
[no (ない) thing (もの)]

— ㊦ ㊦ 1 a **何も…ない**, 少しも…ない (not anything) (㊦ ㊦ で修飾するときは後に置くことに注意; → something ㊦ 冒頭の ㊦ ㊦; → none ㊦ 類義) ▶ I have nothing else [more] to say. 言うことはほかに[これ以上]何もない/There is nothing wrong with failing. 失敗することは何も悪いことじゃない/say absolutely nothing ⇔ say nothing at all まったく何も言わない/His speech contained nothing new. 彼の演説には新しいことは何も含まれていなかった/Mark knows nothing about politics. マークは政治について何も知らない (㊦ Mark doesn't know anything about politics. より 《かたく》響き, 強意的; ↓ 次例)/Nothing bad ever happens to me. 決して何も悪いことは僕の身に起きない (㊦ not anything を主語にすることは通例避けられる: ×Not anything bad...)/ We're bored. There's nothing to do. 退屈だなあ, (娯楽に)何もすることがない (㊦ There's nothing to be done. は「なすすべがない」の意)/You've got nothing to lose. (励まして)失うものは何もない[だめもと]じゃないか/(It's [That's]) better than nothing. (満足のゆくものではないが)何もないよりははまだ (㊦ 主語は具体的な ㊦ のこともある).

(2) smile ㊦ 1, p. 1864.

— ㊦ (㊦ ~s /-z/) ㊦ 1 **ほほえみ, 微笑, 笑顔** (→ laugh ㊦ 1) ▶ have [put] a big smile on one's face ⇔ put on a big smile 満面に笑みをたたえる/wear a wry smile 苦笑いする/give him a little [small, slight] smile 彼にかすかにほほえみかける (㊦ give a little smile to him などとするのはごく 《まれ》)/crack a smile 《くだけて》笑みを浮かべる, 作り笑いする/with a smile 笑って, にっこりと.

- 基本的な語彙として, 発信活動に使えるコロケーションを覚えさせたい。辞書の第 1 用例では, 教科書本文と同じ a big smile (満面の笑み)が have, put といった動詞と一緒に使われているので注意させる。(⇔)に続けて言い換え例も示されているのでチェックさせるとよい。第 3 用例は教科書本文と同じ動詞 give を使っているが, big 以外の形容詞とのコロケーションが角かっこ[]を用いた言い換えで出ているので, 確かめさせる。

(3) compete ㊦ ㊦ 3, p. 408.

3 [通例否定文で] 《…に》 匹敵する, 《…と》 勝負になる 《with》 ▶ We cannot compete with foreign companies financially. 外国の企業には資金面で太刀打ちできない. 4 《音・においなどが》 《別の音・においなどと》 (判別しうらいは

- まず[通例否定文で]という用法指示に注意させ, 教科書本文が cannot であることを確かめさせ, 語義 3 を参照させる。
- 二重山形かっこ« »に囲ってよく使う前置詞との連語が示されているので, with を伴うことにも注意させる。辞書の第 1 用例と教科書本文とを比較させて, 「ひとりの父親の息子に対する純真な愛情に勝ることはできない」という意味になることを確認させる。

Crown English Communication I, p. 145.

Many *Peanuts* episodes (1)focus on such heart-warming aspects of family life. Charles M. Schulz, the cartoonist who created *Peanuts*, put people and incidents from his childhood into his cartoons. And this may be part of the reason why the *Peanuts* cartoons are so (2)popular among people all over the world.

(1) focus 動④, p. 772.

fo-cus /fóukəs/ [「暖炉」>「火」>「焦点」]
 動 (～es, (英・まれ)～ses /-ɪz/; ～ed /-t/, (英・まれ)～sed; ～ing, (英・まれ)～sing) (→分詞 focused)
 ④ 〈人・報道などが「…に」焦点を合わせる, 集中する, 着眼する, 関心が向く; 「…に」焦点[ピント]が合う, 焦点をしぼる「on, upon」▶focus on developing technology 論説 科学技術の開発に重点を置く/This book focuses on the life of Einstein. 論説 この本はアインシュタインの生涯に焦点を当てている。

- 二重山形かつこ« »に囲って示した, よく一緒に用いる前置詞が«on, upon»になっていることに注意させ, 太字の on の方がよく使われることに注意を促す。
- 辞書の第2用例と教科書本文を比較し, 「家庭生活の心温まる側面に焦点を当てている」という意味になることを確認させる。
- ここの第1, 第2用例のように, 大学入試の論説文や, ニュース記事・ビジネス文書など, 論理的英文に特徴的に表れる表現には, 用例に論説ロゴを付してある。上記例なども実際にセンター試験や私大入試などの長文読解問題に非常によく出てくる表現なので, 生徒には「論説」ロゴの付いた用例はきちんとマスターしておくこと」と指導しておくのもよい。

(2) popular 形 1, p. 1535.

pop-u-lar /pá(:)pjələr|pópju-/
 [語源は「人々 (people) の (ar)」]
 形 (比較なし/1は more ～; most ～) 1 〈人・物が「…に, …の間で/…として」人気のある, 評判の; 受けがよい; よく用いられる, ポピュラーな «with, among/as» (↔unpopular) ▶one of the most popular drama series 最も人気のある連続ドラマの1つ/The video game is popular with [among] children. そのテレビゲームは子供たちに人気がある/Yoga has become increasingly popular in recent years. ヨガは近年ますます人気が出てきた (連語) 巨バズ hugely, extremely, immensely).

- 会話や作文で間違いやすい, 前置詞の選択について調べさせたい。popular と共に使う前置詞が, 二重山形かつこ« »に囲って«with, among/as」と記されていることに注目させる。最初の with, among は「«…に, …の間に»人気のある」という表現で, スラッシュで区切られた as は「«…として»人気のある」というときに用いられることに注意させる。
- 教科書本文や辞書の第2用例で前置詞とのコロケーションを確かめさせるほか, 太字で示された第1用例や第3用例もチェックさせるとよい。

Crown English Communication I, p. 146.

—3

In this cartoon, Linus is excited because the home team has won a football game. Charlie Brown listens quietly and then asks Linus one simple question: “How did the other team feel?”

Because Charlie Brown has experienced ⁽¹⁾failure himself, he understands the feelings of other people who fail. He makes us think of other people.

In many ways, Charlie Brown himself is a loser. He is not a very good student, and he is not ⁽²⁾good at sports. The pretty little girl in his class pays no ⁽³⁾attention to him. In a world where wealth

Lesson 10—Section 3

(1) failure 図 1, p. 712.

fail-ure* /fɛɪljər/ [→fail]

— 図 (◎ ~s /-z/) 1 ㊦ «…の」失敗, 不成功 «of, in» (↔success); [~ (of A) to do] (A (人など)が)…できないこと; ㊧ 失敗者, 敗北者, 失敗作, 失敗した試み ▶the line that divides success and failure 成功と失敗の分け目/a failure rate 失敗[故障]率/a complete [total] failure 完全な失敗/(an) economic failure 経済の失速/(a) business failure 事業の失敗, 企業倒産/I felt like a failure as a mother. 私は母親として失格の気がした/The project **was doomed to [ended in, resulted in] failure.** その計画は失敗する運命にあった[失敗に終わった]/avoid failure 失敗を防ぐ/have a history of failure 数々の失敗を犯している。

- 見出し語横の語源欄には[→fail]とあり, failure は fail の派生語であることに注意させる。fail (失敗する)は教科書本文では次の行に出てくるが, 辞書で failure を引くと fail が前のページに出ているので, すぐに参照させることができる。

fail* /feɪl/ [語源は「だます, 失望させる」]
((名) failure)

— 動 (~s /-z/; ~ed /-d/; ~ing)

— ㊦【失敗する】1 a [fail to do] (期待・必要・希望があるにも関わらず)…し損なう, できない (㊦ (かたく) 響くので《主に書》で用い, 日常英語では do not…の方が普通) ▶Scientists have failed to find a cure for the disease. 科学者はまだその病気の治療法を発見できていない/I fail to see [understand] what this has to do with me. (かたく) このことが私と何の関係があるのかわかりかねます (=よりくだけて) I don't see [understand]….

b (人・試み・計画などが)失敗する, うまくいかない (↔succeed); [fail at [in] A] (人が)A (行為・試み・事業など)に失敗する ▶I tried very hard but failed miserably [completely]. 必死になってやったが惨憺(げんげん)たる結果[完全な失敗]だった/I have tried and failed at every diet. あらゆるダイエットを試したがごとく失敗した/fail in one's attempt to do …しようとして失敗する。

c (法案などが)否決される ▶The measure failed on a 49-48 vote. 法案は49対48で否決された。

- 教科書本文には冠詞がないことから, ㊦のロゴが付いた加算用法の「失敗」という意味で使われていることを確認させる。同時に, 教科書次ページの failure は不定冠詞が付いている(1-2 行目)ので, 具体的な失敗例, つまり「敗北者, 失敗作」などを意味する㊧のロゴが付いた加算用法であることを理解させる。
- 加算用法の例としては反意語となる success も一緒に使われている辞書の第 1 用例を, 加算用法としては「母親失格=失格者」の意味になる第 6 用例を参照させるとよい。

(2) good 図 3, p. 867.

3 (人が)有能な, 優秀な, 熟練した; 成績のよい, 勉強ができる; [be good at (doing) A] A (事)がうまい; [be good with A] A (物)を上手[器用]に使う, A (人)の扱いがうまい (↔poor, bad) (↓図 成句)▶be no good ▶a good doctor [lawyer] 腕のいい医者[弁護士]/Greg is a very good singer. グレグは歌がとてもうまい (㊦ コーパス) Greg sings very well. より普通; ↓コーパスの窓/He was good at English. 彼は英語が得意だった (×… good in English. としない)/Are you any good at making paper airplanes? 紙飛行機を作るのは少しはお上手ですか/be good with [kids [one's hands] 子供の扱いがうまい[手先が器用である]/I'm not very good with computers. 私はコンピュータの操作があまりうまくない。

コーパスの窓 be a good + 図と 動+(...) well

人が運動競技や音楽の演奏が上手だという場合は, ㊦を使った Ichiro plays baseball very well. のような形よりも, Ichiro is very good at baseball. のような be good at を用いた表現の方がやや多く, さらに ㊦を使った Ichiro is a very good baseball player. のような形が圧倒的に多く用いられる。ただし, 語学力を表す speak(er) の場合は, ㊦を使った Ed speaks Japanese very well. や Ed is good at Japanese. の方が一般的で, ㊦を使った Ed is a very good speaker of Japanese. は専門的文脈以外では(まれ)。

- コミュニケーション活動に有効な表現として, 知識の定着を図りたい。[be good at (doing) A]という文型表示から, at が後続する際の good の意味を復習させる。at と名詞(A)の間には動名詞が入ることもあることが, 「省略可能」を意味する()に囲って示されている。この点を指摘した上で, 辞書の第 3, 第 4 用例で用法を確認させる。
- 訳語の最後にある(↔poor, bad)が反意語・対語を示していることを確かめさせる。poor の語義 4a (p. 1534), bad の形容詞の語義 5 (p. 147)を引かせて, good と同じく at が後続する形を取ることを理解させたい。

4 a (人が)《技能・学科が》下手な, 苦手な, 拙(づ)い «at (doing)» ▶Steve was poor at all sports. スティーブはまったくの運動音痴だった。

5 [be bad at A] (人が)A (すること)が下手である (poor) (↔good) (㊦ Aは ㊦ ㊦); 未熟な, 無能な ▶He is bad at driving. ≒He is a bad driver. 彼は運転が下手だ/He is a bad loser. 彼は往生際の悪い人だ。

(3) attention 図 1a, p. 130.

at·ten·tion* /əténf(ə)n/ [→attend]

— 図 (徳) ~s /-z/ 1 ㊦ a «…に対する» 注意(力); 関心; 興味 «to» ▶ You should **pay attention to** how much you eat. 食べる量に注意した方がいいですよ/John [didn't **pay** much [paid no, didn't **pay** any] **attention** (to detail). ジョンは(細かい点には)あまり[少しも]注意を払わなかった (連語) close, more, little, particular, special)/**turn one's attention** back to the TV テレビに再び注意を向ける/give A one's (full [undivided]) **attention** Aに(細心の)注意を払う/focus **attention** on A Aに注意を注ぐ/**attract** [draw, get] public [media] **attention** 世間[マスコミ]の関心を引く/**draw** [call] (A's) **attention** to B Bに(Aの)関心を向けさせる/divert [distract] **attention** from A Aから注意をそらす/hold [keep] A's **attention** Aの関心を引きつけておく。

- **attention** がどのような語と一緒に使われるのか、そのコロケーションに注意を促す。
「«…に対する»注意」という場合に使う前置詞は、二重山形かっこに囲って«to»と記されていることをまずチェックさせる。教科書本文では動詞に **pay** が使われていることに触れてから、辞書の第1, 第2用例で用法を調べさせるとよい。特に第2用例では、教科書本文と同じ **no** を使った言い換え表現が角かっこ[]で示されているので確認させる。
- 第3用例以降にも **attention** の典型的コロケーションが出ているので、太字用例を中心に覚えさせるとよい。

Crown English Communication I, p. 147.

and power are so important, Charlie Brown is a failure.

But Charlie Brown never really loses. He never feels ⁽¹⁾sorry for himself. He always ⁽²⁾hopes for a better day tomorrow and keeps on trying. Perhaps that's what makes a real winner.

(1) sorry ㊦ 1, p. 1888.

sor·ry ㊦ /sá:(r)i, só:rilsóri/
[sore (痛み) y (に満ちた)]

— ㊦ (-rier; -riest/more ~; most ~)

1 [[be ~] 気の毒で、かわいそうで、同情して; [[be ~ for [about] A] A (人・事) について気の毒で; [[be ~ to do/ (that) 節] …して…ということを] 気の毒に思う ▶ *I'm sorry to hear that.* それをうかがってお気の毒に思います (× *I'm sorry for [about] hearing that.* としない) (≒ *That's too bad.*) / *I'm sorry that he failed his math test again.* 彼がまた数学の試験に落ちたのには同情するよ / *Poor John. I really felt sorry for him.* ジョントラ、かわいそうに。本当に気の毒です / *No one is sorer than I am about his death.* 彼の死を私ほど気の毒に思っている者はいない / *feel [be] sorry for oneself* (《くだけて》) ふさぎこむ, しょげる。

2 (比較なし) [[be ~] 《行為を/…して/…ということを》 すまなく思っ、後悔して 《for, about/to do/(that) 節》 ▶ “*Oh, I'm sorry* (∇).” “*That's all right [Don't be (sorry)].*” (《話》) 「ごめんなさい」「かまいませんよ」 (1) 謝罪の気持ちを強めるときは am に強勢を置いたり、強意の ㊦ が用いられ、さらにその ㊦ に強勢が置かれたりする: (*I'm*) terribly [so] (∇) sorry (∇). (2) *Sorry* (∇) は軽い失敗の場合; ↓ 語法 (1) / (*I'm*) sorry about that [this]. そのことについては[こんなことになって]申し訳ありません (↓ **㊦** / *I'm*) sorry *I'm* late. ≒ (*I'm*) sorry for [about] the delay. 遅れてすみません (1) (*I'm*) sorry to be late [for being late, about being late]. は可能だが《まれ》。 (2) *we're late* が続くときは, *Sorry we're late.* のように *sorry* の前の主語と ㊦ は省略されるのが普通) / *I'm so sorry, but I can't accept your kind invitation.* 誠に申し訳ありませんが招待には応じられません / (*I'm*) sorry to bother [trouble] you, but I've got to talk to you. ご面倒をおかけして申し訳ないのですが、お話があるのです (1) **㊦** 文脈から明らかな場合、but まで述べた時点で聞き手がそれ以降を察することも多い) / *I'm sorry that I have kept you waiting.* ≒ 《かたく》 *I'm sorry to have kept you waiting.* お待たせして申し訳ありません (1) **㊦** *I'm sorry for having kept you waiting.* は《まれ》 / *I am sorry if I have caused offence.* お気にさわったらごめんなさい / *I'm sorry not to return it sooner.* それをもっと早く返せなくてすまない / *You'll [You're going to] be sorry if you do [× will do] it.* それをしたらあなたは後悔しますよ (→ **㊦** 1 a).

- for が後続するケースは、形容詞の語義 1 と語義 2 の両方に出ているので比較させた。語義 1 には [[be ~ for [about] A] という略式文型表示があり、語義 2 には二重山形かっこで《for》と記されていることをまずチェックさせる。教科書本文では *sorry for himself* と *for* の後に人がきていることに注目し、「A (人・事) について気の毒で」と人が後続することを記した語義 1 になることを確認させる。
- *feel* を使った第 3 用例が教科書本文と似ているので参照させる。

(2) hope ㊦ ㊦, p. 977.

— ㊦ [[hope (for A)] (人が) (A) を望む, 願う, 期待する (→ expect 類義); [[hope for A to do] A (事・人) が…するのを望む, 期待する ▶ *Are you hoping for a boy or a girl?* 男の子がお望みですかそれとも女の子ですか / *All the team could do was wait and hope.* チームにできることは(勝利を)待ち望むことだけであった / *Economists are hoping for the recession to end.* 経済の専門家たちは不況が終わるのを願っている / *The economic recovery that had been hoped for finally came.* 待ち望んだ景気回復ついにやって来た (1) **㊦** 《まれ》に受け身で用いる) / *That didn't go as smoothly as I had hoped.* 思い通りにはスムーズに行かなかった。

- hope は他動詞用法では that 節や to 不定詞を取るが、名詞が後続する場合には for を伴う自動詞用法になることに注意させる。[[hope (for A)] という文型表示を確かめさせ、教科書本文が「明日がより良い日になることを願う」という意味になることを確認する。他動詞では that 節や to 不定詞を伴う文型を取ることを、他動詞 1 の文型表示 [[hope (that) 節] や、他動詞 2 の [[hope to do] で確認させることよい。

hope ㊦ /hoʊp/
(形) hopeful, hopeless, (副) hopefully

— ㊦ (～s /-s/; ~d /-t/; hoping)

— ㊦ 1 [[hope (that) 節] ……を望む, 願う, 期待する (1) that 節の内容は「そうなる」と思うこと、「望ましくない」ことの場合は *I'm afraid* を用いる; *wish* との違いは ↓ 類義); 《主に書》 [[it is hoped that 節] ……ということが期待される[望まれる] (→ it ㊦ 4 e) ▶ *We hope (that) you enjoy [will enjoy] the show.* どうぞショーをお楽しみください (1) 現在時制と will のいずれも可能; 現在時制は確定した未来を示すので強い願望を表し相手や気遣った表現になることがある: *I hope you get well very soon.* すぐ元気になりますよ。 (2) 遠い定かでない未来は will が用いられる: *I hope (that) one day things will change.* いつか事態が変わることを願っている。 (3) 意志未来は現在時制で置き換えることができない: *I hope you'll reconsider.* もう一度考え直して欲しい) / *I just [do, sincerely, very much, × deeply] hope that you make the right choice.* あなたが正しい選択をすることをひたすら[切に, 心から, とても]願っています (1) *just* の代わりに *only* も可能) / *I hope I didn't wake you.* (相手を気遣って) 寝てましたか (1) *think* や *believe* のように × *I don't hope I woke you.* としない) / *I'll see you later, I hope.* 《話》後で会おうよ; 会えるといいね (1) **㊦** 《話》では文末に付加したり、文中に挿入される) / *It is hoped that he will set a new world record.* 彼は世界新記録を樹立すると期待されている (1) 人を主語にした × *He is hoped to set...* の受け身にしない) / *We can only hope and pray (that) the operation will go well.* あとは手術がうまく行くことを祈るしかない / *I hope you're going to make more of an effort this time.* (気が進まないかもしれないが) 今度はもっとがんばってくれるだろうね / *I hoped she [would feel [felt] the same way.* 彼女が同じように感じているといいなあと思った (↑ 第 1 例)。

2 [[hope to do] ……することを望む, 願う ▶ *I hope to come back again.* また戻ってこれることを願います (1) 《くだけた話》では主語を省略することもある: *Hope to see you again.* また会えるといいね) / *It's a shame. We had hoped to win the match.* 残念だよ。その試合には勝ったんだけど (1) *had hoped to do* は希望が実現しなかったことを表現する; **㊦** *hoped to have done* も同様の意味を表すが比較的《まれ》)。

Crown English Communication I, p. 148.

—4

The *Peanuts* cartoons are not funny in the ordinary way. We are more likely to smile than to burst out ⁽¹⁾laughing. But somehow they make us feel good. We want to see Charlie Brown and Linus and Snoopy and ⁽²⁾all the other *Peanuts* characters again tomorrow in our newspaper. If they are not there, we will ⁽³⁾miss them as we might miss a friend who has gone away. It is not because our friend always makes us laugh, but because he always makes us feel good about ourselves.

Lesson 10—Section 4

(1) laugh 動 ① 1a, p. 1132.

laugh 動 /læfˈlɑːf/ (U-gh は /f/) [基本義は「おかしく
て(心の底から)笑う」] (名 laughter)

— 動 (～s /-s/; ～ed /-t/; ～ing) (→分詞 laughing)
— ① 1a (人が) (声を立てて) 笑う; «光景・話を» (見て・聞いて) 笑う; «人を» (からかって) あざ笑う, 嘲笑する, ばかにする; «問題などを» 軽視する «at» (U 声を立てる笑いを表す一般的な語; ↓類義) ▶No one laughed at his jokes. 彼のジョークに笑った人はいなかった/I'm afraid that people will laugh at me. 人に笑われるのではないかと心配だ/laugh at oneself (自分のことで) 深く悩まない, 軽く考える/burst out laughing どっと笑う/I couldn't stop laughing. 笑いが止まらなかった/laugh out loud [loudly] 声をあげて笑う/laugh heartily [uproariously, uncontrollably] 大笑いする(げらげら笑う, 笑いが止まらない)/laugh to oneself ひとり笑いをする/He who laughs last(,) laughs best [longest]. ≒ He laughs best who laughs last. (ことわざ) 最後に笑う者が最もよく[長く]笑う (U 嫌なことをされた相手に「最後に笑うのは誰か今に見てろよ」といった気持ちをこめて)/Laugh and grow fat. (ことわざ) 笑って太れ; 「笑う門には福来たる」。

語法のポイント そんなことをしたら笑われるよ。
× You will be laughed if you do that.
○ You will be laughed at if you do that.
U laugh 単独では受け身にできない; at を伴って be laughed at とする。

b «失敗などを» (思い出して) 笑う, 笑いたい気持ちになる «about» ▶We'll be laughing about this one day. これもいつか笑い話になるよ (U 失敗を慰めて)。

類義 laugh と smile, grin, chuckle など
laugh は声を立てる笑いを表す一般的な語で, 幸せや面白さを感じて笑う場合に用いるが, 人をばかにして笑うことも表す。smile は声を立てずにこりこりほほ笑んで, 喜びや友好を表すが, 笑顔で承認や激励を表現する場合にも用いられる。grin は歯を見せてにやりと笑うことをさし, 軽蔑・悪意を表現することも可能。chuckle は《主に書》で, 笑いを隠そうとしてくくくっと笑うことを表し, 男性が主語となることが多い。giggle は子供や女性がおかしさ恥ずかしさから, 高い声で繰り返し笑う場合に用いる。sneer は敬意を払わず, 人を見下して冷笑するときに使われ, 《主に書》で好まれる。

- 「笑う」を表す類語をまとめて調べさせたい。自動詞の語義 1a には, どのような笑い方かを示す補足説明が()で示されているので, 声を立てて笑う際に laugh を使うことにまず注意を向けさせる。さらに, 同ページにある類義コラムに目を通すことで, 教科書本文で前行に出てくる smile との違いをとらえさせることができる。
- 辞書の第4用例は教科書本文と同じ表現であり, よく使われるコロケーションが太字になっているので確認させる。burst out laughing と smile とを対比させ, 「大笑いするというより微笑むことが多い」という意味を理解させる。

(2) all 形 1a, p. 55.

all 形 /ɔ:l/

— 形 (比較なし) 1a [all the A] (特定の集合の中の) すべてのA (人・物), 全部のA, 全員のA (U(1) Aは C 名詞複数形・U 名詞・集合名詞。 (2) all の後は the の代わりに所有格(代)名詞・指示形容詞[代名詞]が続くことがある; →every 類義, whole 類義, 's [文法]) ▶All the children love ice cream. その子たちはみんなアイスクリームが大好きです/I spend all my money on my car. マイカーにお金を全部つぎ込んでいます/They ate up all the bread. 彼らはそのパンを全部平らげた (U 通例 U 名詞には whole を用いない; × ... the whole bread)/Why are you asking all these questions? なぜこんな質問をするのですか (U 文法) this, these, that, those などを伴って軽蔑を暗示することがある; ↓第6例)/Of all the things you've done, what are you proudest of? あなたがこれまでやってきたことの中で最も誇りに思うことは何ですか/How are you going to pay for all this? どうやってこの支払いを済ませるつもりですか (U 文法) 複数形が続く場合, ... all these [those] より, all these [those] things のように複数形 図 を従える方が普通)。

- なじみのある語だけに, きちんと all の用法を復習させる。「すべての…」と表現する場合, all ... と all the ... を使い分けられるように指導したい。形容詞の語義 1a の文型表示[all the A]を参照させ, 語義が「(特定の集合の中の)すべての A」となっていることから, 不特定のグループではなく, 「特定できるグループの全員・全部」を指すことを確認させる。語義 1b の文型表示[all A]や語義「(不特定な一般的事柄をさして)すべての A」を語義 1a と比較させたり, 第1用例同士を比べさせるのが効果的。教科書本文では『ピーナッツ』の登場人物の名前に続けて all the other Peanuts characters となっていることから, 「漫画『ピーナッツ』に出てくる他の登場人物すべて」という特定のグループを指している用法だと理解させる。

b [all A] (不特定な一般的事柄をさして) «…から…まで» すべてのA (人・物), A はみな «from ... to ...» (U Aは C 名詞複数形・U 名詞・集合名詞; →family 図 1 [文法]) ▶All children [×All of children] love ice cream. 子供はみんなアイスクリームが好きだ (≒ Every child [×The every child] loves ...)/all kinds [sorts] of animals ≒ animals of all kinds [sorts] あらゆる種類の動物 (U(1) 文法) every kind [sort] of ..., 《話》 all kind [sort] of ... より圧倒的に普通。 (2) all the kinds [sorts] of ... は《まれ》)in all directions 四方八方に/The disease affects children of all ages from young babies to teenagers. その病気は赤ちゃんからティーンエイジャーに至るまであらゆる年代の子供たちを襲う/in all respects すべての点で/Give up all hope of seeing them again. 彼らとの再会はきっぱりあきらめなさい/I like all [×every] music. 音楽なんでも好きです (U every は U 名詞とは用いない)。

- A にくる名詞の形が 4 の(1)で解説されているのでチェックさせて、教科書本文では加算名詞の複数形であることを確かめさせる。辞書の第 1, 4, 5 用例が加算名詞, 第 2, 3 用例が不加算名詞の例になっているので比較させるとよい。
- さらに, 語法にはより詳しい all ... と all the ... についての情報があり, 適宜参照させるとよい。

語法 (1) all ... と all the ... all ... は不特定な一般的事柄をさすのに対して (↓b), all the ... は特定の集合をさす。ただし, 文脈から特定の集合をさすことが明らかな場合, 後者の the は省略されることがある ▶I'm going to see all (the) children at 9 a.m. 午前9時に子供たちみんなに会う予定だ/90 percent of all (the) smokers begin before age 19. 全喫煙者の90パーセントは19歳になる前にタバコを吸い始めている (☑口バツ) ... percent of の後では the は省略されることが多い/I'll take all (the) three shirts, please. シャツを3つともください (☑1) 数詞を伴う複数形 図の前では the は省略されることがある。(2) 2つのときは both shirts とし, ×all two shirts としない。(2) all と固有名詞 地名・作品名など固有名詞には all (of) ... を用いる ▶I want all London to see it. 私はロンドン中の人にそれを見てもらいたい (=I want all of London [the whole of London, ×(the) whole London] to see it.)/all Romeo and Juliet 『ロミオとジュリエット』全編 (=all of [the whole of] Romeo and Juliet; ×(the) whole Romeo and Juliet).

(3) miss ㊦㊧ 4, p. 1280.

4 (人・物) **がいない[ない]ので寂しく思う**; (物) **がなくて困る**; [miss (A) doing] (Aが) **…したのを懐かしく思う**; …できなくなったことを残念に思う ▶I really miss my family when I'm away. 家を離れると家族への思いが胸につのる/His warm personality will be missed by his colleagues. 同僚たちは彼の暖かい人柄を惜しむことだろう/I miss hearing her voice every day. 彼女の声が毎日聞けなくなったのが残念だ。

コミュニケーション

A: I'll miss you. さみしくなるわね。

B: I'll miss you too. こちらもね。

1 (1) しばらく会えなくなる人との別れのあいさつ。(2) miss you は /miʃu/ と発音されることがある。

- 教科書本文では miss が同じ文の中で 2 回出てくること, どちらも人を目的語にした他動詞であることを確認させる。
- 目的語にどのような名詞を取るか(選択制限)が山形かっこ 〈 〉 で記されていることに注意させる。教科書本文の 2 つ目の miss が a friend who has gone away (遠くに行ってしまった友だち) という名詞句を目的語にしていることから, 人を目的語にと記した語義の中でも「〈人・物〉がいない[ない]ので寂しく思う」という語義 **4** がこの部分の意味としてふさわしいことを確かめさせる。

- 用例に続く **コミュニケーション** では会話の頻出表現が出ているので確認させる。
- 語義 **1** から **6** はいずれもよく使われるので目を通させるとよい。選択制限によって意味が変わることに注意させたい。

miss /mis/ [元来は「(的を)当てそこなう」] ((形) missing)

— ㊦ (～es /-ɪz/; ~ed /-t/; ~ing)

— ㊧ **1** «…が原因で» (希望していたが) (場所・行事) **に行けない**, …を欠席[欠場]する, (事)をしそこなう «with, because of, through»; [miss doing] …をしそこなう ▶miss a game with a knee injury 膝のけがで試合を欠場する/miss school [class(es), a class] because of illness 病気のために学校[授業]を休む (☑生徒・先生の両方がある)/You missed an interesting lecture yesterday. 君は昨日(休んで)おもしろい講義を聞き逃したよ/“Are you coming to the party?” “I will. (I) wouldn't miss it for the world.” 《話》「パーティに行きますか?」ええ。絶対に行きますとも/miss lunch 昼食を食べそこねる/She missed being able to say goodbye to her father just by an hour. 彼女はたった1時間の差で父親に別れを告げられなかった。

2 (機会) **を逃がす**, 逸する (↔seize) ▶miss a chance to speak to the famous actor 有名な俳優と言葉を交すチャンスを逃す/The opportunity was too good to miss [was not to be missed]. それは見逃すには余りに惜しい絶好の機会だった。

3a (人が) (狙ったもの) **を打ち[捕り]そこなう**; (ボール・弾などが) (物・人) **からはずれる** (↔hit); (球技・ゴルフなどで) (シュート・ゴールなど) **をはずす** ▶He swung the bat hard but missed the ball. 彼はバットを思い切り振ったがから振りだった/The missile completely [narrowly] missed its target. ミサイルは完全に[間一髪で]標的からはずれた/miss one's footing 足を踏みはずす/miss a penalty [a field goal] ペナルティキック[フィールドゴール]をはずす。

b (要点など) **を理解しない**, (当て) **がはずれる** (↔get) ▶You are still missing the point. 君はまだ論点がわかっていない/I can't follow your reasoning. I must have missed something. 君の論理がわからない。どこか理解できない所があったにちがいない/Brian likes you unless I miss my guess. 僕の推測が間違っていなければ, プライアンは君のことが好きなんだよ。

4 (人・物) **がいない[ない]ので寂しく思う**; (物) **がなくて困る**; [miss (A) doing] (Aが) **…したのを懐かしく思う**; …できなくなったことを残念に思う ▶I really miss my family when I'm away. 家を離れると家族への思いが胸につのる/His warm personality will be missed by his colleagues. 同僚たちは彼の暖かい人柄を惜しむことだろう/I miss hearing her voice every day. 彼女の声が毎日聞けなくなったのが残念だ。

コミュニケーション

A: I'll miss you. さみしくなるわね。

B: I'll miss you too. こちらもね。

1 (1) しばらく会えなくなる人との別れのあいさつ。(2) miss you は /miʃu/ と発音されることがある。

5 (遅れて) (電車・バスなど) **に乗りそこなう**, 間に合わない (↔catch); (人) **に会いそこなう** ▶I got caught in traffic and missed my plane. 交通渋滞に遭って, 飛行機に間に合わなかった/miss the opening speech 開会の辞を聞きそこなう/Oh, you've just missed him. He was here a minute ago. ちょっとの差で彼に会いそこなったね。さっきまでここにいたんだよ。

6 (話・物などを) **聞き逃す**, **見落とす**, 見[聞き]そこなう, …に気づかない («よりかたく») overlook; (駅) **で降りそこねる** ▶Sorry, I missed that. すみません。ぼうっとしていて聞き逃しました/Don't miss a single word. 一言も聞き逃すな/Armageddon airs tonight at 8 p.m. on AMC! Don't miss it! 『アルマゲドン』は AMC で今夜8時放送! 見逃すな!/I missed my stop. 降りる駅を乗りすごした/Am I missing something? (自分の理解・判断に自信がなくなって)何か忘れて[見逃して, 聞き逃して]いるかな。

コミュニケーション

A: It's the tallest building on the left—you can't miss it. 左手の一番高いビルです。行けば必ずわかります。

B: Thank you. どうもありがとう。

1 道をきかれたときの返答によく用いる。

Crown English Communication I, p. 149.

Charles M. Schulz seems to suggest that real success in life is not a matter of money, fame, and power. Rather, it is defined by hope, courage, respect for others and, above ⁽¹⁾all, by a sense of humor. He once said, “If I were given the opportunity to present a gift to young people, it would be the ability for each individual to ⁽²⁾learn to laugh at himself.”

(1) all 代成句 **above all**, p. 57.

above all (else)* [[情報追加]] (より重要な情報を付け加えて)何よりも(重要なのは),とりわけ,中でも (1)文頭・文中・文末で) ▶“What advice would you give?” “Well, *above all*, you’ve got to use your common sense.” 「あなたならどのようなアドバイスをしますか」「そうですね,まず良識ある判断をしなければなりません」/It’s delicious, nutritious, colourful **and above all**, safe. それはおいしいし,栄養はあるし,彩(いろ)りもいいし,そして何よりも安全である。

語法 (1)単なる最上級の強調には用いない ▶This is by far [×above all] the most important item in the program. これはプログラムの中でとりわけ重要な項目だ。(2)most of all, the most の代わりには用いない ▶What worries me *most of all* [the most, ×above all] is a decrease in the number of students. 何よりも心配なのは学生数の減少である。

- all を引いて辞書を開いたままにしてあると,すぐにこの成句を調べることができる。成句は品詞ごとにまとめて挙げてあるので,代名詞の成句で **above all** を探させる。
- [[情報追加]]という,語の意味機能に関する情報や,()の補足説明に注意させ,教科書本文が「(他のものによっても決められるが)なによりユーモアのセンスによって決まってくる」のように,情報の追加になっていることを確認させる。教科書本文と同じ **and above all** が辞書の第2用例で使われているのでチェックさせる。

(2) learn 動他 **4a**, pp. 1140–41.

4a (習慣・態度などを身につける; [[learn to do]] (好ましい結果として)…する[できる]ようになる (1)自分の努力を含意; 「自然にそうなる」は come to do) ▶*learn manners* 行儀がよくなる/Our son *learned* to be patient. 息子は我慢強くなった。 **b** [[learn (that) 節/wh 句]] …ということ[…すべき]を次第に悟る,理解する ▶You have to *learn that* it takes time to build up trust. 信頼を築き上げるのには時間がかかるということをおぼろげにわかっていく。

- [[learn to do]]の文型表示を手掛かりに他動詞の語義 **4a** に導き,ここでは「…できるようになる」という意味になることを確認させる。生徒には,learn といえども「学ぶ,習う」になるわけではないということを意識させたい。この用法は教科書次ページ 13 行目にも登場するので,後で復習させることもできる。
- 「学ぶ,習う」ではない learn として,教科書次ページに他動詞語義 **2** の「…ということを知る」を意味する learn が使われているので注意させる(3 行目と 11 行目の 2 か所)。that 節が続くことから,[[learn (that) 節/wh 節]]の文型表示のある語義 **2** を参照させるとよい。

2 (かたく) (人が) «…から» (情報・知らせなど)を知る «from»; [[learn (that) 節/wh 節]] …ということ[…か]を知る,聞く (find out) ▶I *learned* the news from Ann. 私はその知らせをアンから聞いた/He was shocked to *learn that* she had died. 彼は彼女が死んだと聞いてショックを受けた/You will soon *learn why* that happened. なぜそれが起こったかすぐわかります/*It has been learned that* ……ということがわかった。

Crown English Communication I, p. 150.

—5

For nearly 50 years, Charles M. Schulz drew *Peanuts*, day after day, one episode at a time. However, late in 1999, Schulz learned that he had cancer and could no longer continue. To say goodbye to his readers, he drew a farewell cartoon and it was to appear some six weeks later. If he had lived one day longer, he would have seen it in (1)print. Sadly, he died the day before the cartoon came out.

On February 13, 2000, *Peanuts* lovers all over the world (2)woke to learn that both the *Peanuts* characters and their author were no more. We had learned to (3)think of them as our friends, but they were now gone. Charles M. Schulz and *Peanuts* have helped us face this difficult world with their special type of humor and gentle encouragement to carry on.

Though there will be no new *Peanuts* cartoons, the old ones will be read for years to come. They

Lesson 10—Section 5

(1) print ㊦成句 in print, p. 1568.

in print 印刷になって、印刷されて(↑1); 〈本が〉出版されて
 ▶The book is still *in print*. その本はまだ出版されている。
out of print 〈本が〉絶版になって。

- ・ 「印刷になって」という意味なのでチェックさせる。教科書本文では「新聞に掲載される」という意味になることを確認させる。
- ・ さらに、すぐ下の成句である **out of print** (絶版になって)も比較して触れておくとよい。

(2) wake ㊦㊧ 1, pp. 2204–05.

wake¹ ㊦ /weɪk/
 [原義は ㊧ 3]
 ㊦ ㊦ (～s /-s/; **woke** /wouk/, (米・まれ) ~d /-t/; **woken** /wouk(ə)n/, (米・まれ) ~d; **waking**)
 ㊦ ㊧ 1 〈人などが〉《夢・眠りなどから/音に/…が原因で/…して》**目を覚ます**, 起きる (up) 《from, out of/to/with/doing》; [～(up) to do] 目覚めて…する (㊦ いずれも up を伴わない形は《主に書》); ↓**類義** ▶Wake up! It's seven o'clock. 起きなさい。7時ですよ/suddenly **wake (up)** from a deep sleep [one's dream] 深い眠り[夢]から突然覚める /**wake up screaming** in the middle of the night 夜中に叫び声をあげて目を覚ます/I **woke (up)** to find myself alone in the room. 目が覚めると部屋にひとりぼっちだった/**wake with** a headache [to the sound of footsteps] 頭痛がして[足音に]目が覚める。

類義 ▶ wake と awake, awaken など
 wake (up), awake, awaken, waken (up) はいずれも ㊦ の「目覚める」、㊧ の「目覚めさせる」の用法があるが、wake up が最も一般的。wake は up を伴わない形は《主に書》。awake は「目が覚めている」状態を表す ㊦ としての用法が好まれ、㊦ としては《かたく・主に書》で、特に ㊦ の過去形での使用が多い。awaken は ㊧、特に受け身が好まれ、「人に悟らせる」「感情などを喚起する」といった比喩的意味にも用いられる。waken (up) は《かたく・文》に限られ、他の語より使用頻度は低い。get (...) up は特に朝、目覚めて[目覚めさせて]ベッドから出るところまでをいう表現。get out of bed は眠りから目覚めた後、「ベッドから出る」動作に注目した表現。

- ・ 意味を漠然と把握することは、wake up を覚えている生徒が多いので問題ないと思われるが、教科書本文の「wake+to 不定詞」の形を意識させたい。自動詞の語義 1 にある略式文型表示の[～(up) to do]を探させて、「目覚めて…する」という意味でこの形を使うことをチェックさせる。to 不定詞を使った辞書の第 4 用例を参考にして、教科書本文が woke to learn that ... で「目覚めて…であることを知った」という意味になることを理解させる。

(3) think ㊦成句 think of A as C, p. 2054.

think of A as C* A(人・物・事)をCだと思ふ、みなす (regard) (㊦ Cは ㊦㊦㊦㊦ など; 進行形にしない) ▶Most people **think of** education as having only to do with school. たいていの人は教育が学校とだけ関係があると思っている/Dogs **think of** themselves as members of the family. (飼い)犬は自分を家族の一員だと思っている。

- ・ Cがどのような要素になるかが㊦に示されているので注目させ、教科書本文では名詞(our friends)になっていることを確認させる。辞書の第 2 用例が同じく名詞になっているので参照させるとよい。
- ・ 成句義の中に(regard)とあるのは、「双解(英語による言い換え)」を表していることを説明し、この think of A as C は regard A as C 「A を C とみなす、考える」と同様の意味になることを理解させる。regard は of を伴わないが、think は of が必要であることに注意させる。

Crown English Communication I, p. 151.

will keep (1)reminding us that true success lies in sensitivity to others, in small acts of kindness, and in the courage to hope even in the face of great difficulty.

(1) remind 動④ 1b, p. 1661.

b [remind A to do/that 節/wh 句] 〈人などが〉A〈人〉に…することを[…ということを, …かを]気づかせる ▶Remind me to call Cathy tomorrow. 明日キャシーに電話することを念を押してくれ/Her call reminded Tom that he had his homework to do. 彼女からの電話でトムは宿題をしなくちゃいけないのを思い出した/I always remind myself to be patient. 私はいつも自分自身に我慢強くなしなければならないと言いつつ聞かせている。

- ・ 「思い出させる」「気付かせる」の remind のうち、教科書本文では that 節を伴う形で出ているので語義 **1b** を参照させる。「思い出す」「覚えている」の remember とは違う事に注意させるとよい。remind を引くと見開きページに remember があるので、その場で違いが調べられて効果的。

re-mem-ber* /rimémber/

[re (元に) member (記憶している)] ((名) remembrance)
 動 (～s /-z/; ～ed /-d/; ～ing /-b(ə)rɪŋ/) (1) 通例進行形にしない; ↓② 語法 (2) 時にそれほど大きな意味の差を生じることなく can や could を伴うことがある)
 ④ **1a** 〈人が〉「…の時から」〈人・物・事〉を覚えている、記憶している «from»; [remember (that) 節/wh 節] …ということ[…かを]覚えている; [remember A as (being) C] A〈人・物〉をCであると覚えている (Cは 図形) ▶I (can) remember the day well [clearly, like (it was) yesterday]. 私はその日のことをよく[はっきりと, きのうのことに]覚えている (I like (it was) yesterday は as if it were yesterday ともできる)/She remembered that she had promised to help him. 彼女は彼を助けてやると約束したことを忘れていなかった/I can't remember whether it was Rome or Naples. 私はそれがローマだったのかナポリだったのか覚えていない/I remember her as being aggressive. 私は彼女を積極的な女性であると記憶している/vaguely [scarcely] remember A Aをぼんやりと覚えている[あまりよく覚えていない]/distinctly [vividly] remember A Aをはっきりと覚えている/John remembers it from long ago. ジョンはずっと前からそれを覚えている。

- ・ [[remind A to do/that 節/wh 句]の文型表示をしっかりと把握させる。remind A の部分までで、remind の後ろに A (目的語)がくることをまず押さえて、さらに A は〈人〉であることを確かめさせる。それに続く形が to 不定詞, that 節, wh 句のいずれかになることがスラッシュで区切って示されているのに注意させる。that 節が使われている辞書の第2用例を参照させた上で、教科書本文が「…であることを私たちに気づかせる」という意味になることを理解させる。remember とは取る文型が異なることにも注意を向けられるとよい。
- ・ **1b** 以外の **1a, 2, 3** を見ると、どの意味でも remind+目的語+of 句の形が取れることがわかる。remind は of 句と共に使われることが多いので、チェックさせるとよい。

re-mind* /rimámd/ [re (再び) mind (気をつける)]

動 (～s /-dz/; ～ed /-d/; ～ing)
 ④ **1a** 〈人〉に思い出させる, 気づかせる; [remind A about B/of B] 〈人が〉A〈人〉にB〈しなければならないことなど〉を思い出させる, 気づかせる ▶Sarah reminded me about the meeting on Friday. セラは私に金曜の会議を忘れないようにと言った/Thank you for reminding me. 思い出させてくれてありがとう/That reminds me. (話) それで思い出した(↓成句).
2 [remind A of B/wh 節] 〈物・事が〉A〈人〉にB〈過去の出来事など〉を[…かを]思い出させる ▶The song reminded me of my mom. その歌を聞いて母のことを思い出した。
3 [remind A of B] 〈人・物・事が〉A〈人〉にB〈別の人・物・事〉を思い起こさせる, 連想させる ▶He reminded me of my father. 彼は私の父によく似ていた/What actor does he remind you of? 彼、俳優の誰かに似ていないかしら。